

やまぶき 第15集

〈学校教育のための博物館活用の手引き〉



川 越 市 立 博 物 館

あいさつ

川越市教育委員会
教育長 伊藤 明

川越市教育委員会では、本市教育振興基本計画の基本理念「生きる力と学びを育む川越市の教育」として、次代を担いたくましく生きる児童生徒の育成のために、様々な事業を展開し、学校教育の充実に努めております。

これまでに、川越市立博物館では常設展示だけでなく、成人向けの講座・教室、子ども向けの体験教室等、近県を含む小中学校の学習の場として、幅広く利用され、川越市の歴史や伝統、文化の発信地としての役割を果たしてきました。平成2年の開館以来、今年で25年を迎え、来館者も300万人を数えるに至っています。

安岡正篤氏は教育家原則の中で、「社会教育を充実せよ。博物館等を充実し、学校教育を補え。」また、「何にしびれるかによって、その人は決まる。人間は本物にしびれなければならない。」と言っています。博物館に収蔵されている価値ある文化財と出会った子どもたちは資料を通して、先人の知恵や工夫、歴史的背景等を学ぶことができます。当館は「博学連携」の中核として、博物館利用研究委員会を組織し、小・中学校の先生方と博物館職員が協同して、学校教育における博物館活用の研究を進めております。

今回は、平成25・26年度の2年間の継続研究で「博物館の資料を活用した授業づくりー社会科における博物館資料の効果的な活用法ー」をテーマとし、博物館職員が学校に出向き先生方と一緒に授業を行う訪問授業の研究を行って参りました。その成果を「やまぶき第15集」としてまとめることができました。

この「やまぶき第15集」は川越市立博物館ホームページに掲載いたします。各学校においては、このホームページ及び博物館資料を学校で活用し、教科書の中で役立てていただければ幸いです。

結びに、今日まで熱心に研究してくださり、博学連携の活動に尽力された博物館利用研究委員会の各委員の先生方に、心から感謝申し上げ、あいさつといたします。

博物館利用研究委員会
委員長 山 上 泉

近年、我が国は急速に少子高齢化、情報化、国際化など社会がめまぐるしく変化し、この激動する社会に対応していくために、知・徳・体のバランスがとれた、たくましく生きぬく児童生徒を育成することが求められています。そのためには学習指導要領の理念を実現し、児童生徒一人ひとりに応じた指導を充実させるために、言語活動の充実や体験的な学習、また課題解決的な学習を展開する中で、学習意欲の向上を図り、学び続ける児童生徒の育成を図らなければなりません。

博物館利用研究委員会では、そのための博学連携を推進し、先駆的な研究を26年に渡り続けてきました。その中で平成25年度～26年度の2年間は、社会科に特化し、小学校4名・中学校5名の委員が、研究主題「博物館の資料を活用した授業づくりー社会科における博物館資料の効果的な活用法ー」をテーマに研究を進めてまいりました。

具体的には自校の社会科の授業の中で、博物館所蔵資料を用いて授業実践を行い、同時にゲストティーチャーとして博物館職員からの説明等を聞き、本物や実物に近い資料等にふれ、児童生徒がより理解を深めていくことをねらいとして実践を積み重ねてきました。グローバル化、国際化の社会の中で求められる資質は、自分の生まれ育った川越の伝統と文化、歴史、地理に愛着を持ち、郷土川越に誇りをもつことであり、川越の次代を担う子どもたちを育成するための博学連携は欠かすことができません。学校の教員にとっても、気軽に博物館と連携し必要な資料を収集したり、時には博物館職員をゲストティーチャーとして招聘することは、大きな意義があります。この「やまぶき第15集」に具体的な展開例を掲載しました。各学校におかれましては、積極的な活用を図っていただくことを切に願ってやみません。

結びに、本研究を進めるにあたって、ご尽力いただいた委員の皆様をはじめ、各校の校長先生方。また、ご指導・ご助言をいただきました川越市教育委員会の先生方並びに川越市立博物館の皆様には厚く御礼を申し上げ、あいさつといたします。

博物館利用研究委員会

目的

- 学校の教育課程に位置付けた博物館・文化財の活用の研究と実践
- 地域に根ざした博物館・文化財活用の研究

研究開発

各教科・領域の学習に活用できる博物館資料や文化財の研究・実践

教育普及

博物館活用の手引き
「やまぶき」の発行
博物館活用指導者研修会

校外学習支援

学習カード・指導カードの作成・配布

博物館利用研究委員会

委員長

事務局

副委員長

小学校研究部

中学校研究部

平成25・26年度の研究

博物館の資料を活用した授業づくり
—社会科における博物館資料の効果的な活用法—

■博物館利用研究委員名

牛子小学校校長	山上 泉 (委員長)	名細中学校教頭	石井 伸明 (副委員長)
川越小学校教諭	関子田 瞳	高階小学校教諭	櫻 圭
福原小学校教諭	畑中 隆行	霞ヶ関東小学校教諭	大村 幸永
城南中学校教諭	小川紗世子	大東中学校教諭	秋田 智康
大東西中学校教諭	鈴木 憲之	霞ヶ関東中学校教諭	富澤 範光
霞ヶ関西中学校教諭	増田 翔太		

■担当した職員

岡島 光次 (指導主事) 須田 浩司 (指導主事) 寺内 和広 (指導主事)

博物館職員・収蔵資料の活用

研究主題 「博物館の資料を活用した授業づくり」
—社会科における博物館資料の効果的な活用法—

展示資料

博物館資料



収蔵庫資料

地域の文化財等

写真・ビデオ

学習指導要領のねらいに迫る

「生きる力」の育成

- ・言語活動の充実・体験活動の充実
- ・伝統や文化に関する教育の充実

授業づくり

訪問授業による資料の活用を図り、館職員がどのように関わるか。

学習意欲の向上

思考力・判断力・表現力の育成

博物館

児童生徒の身近な学習の場
生涯にわたって活用する態度や能力の基礎を養う場

研究の視点と手だて

社会科

研究の視点 1

◎授業で活用できる資料の研究

- 常設展示資料・収蔵資料の調査
- 授業に活用する資料の検討・作成
- 授業における博物館職員の役割

研究の視点 2

◎授業実践による考察

- 「指導カード」の検討・作成
- 訪問授業の実践
- 授業後の考察

小学校第6学年 社会科 指導カード

1 小単元名 「戦国の世から江戸の世へ」

2 指導計画（9時間扱い）

- (1) 長篠の戦いの絵図から織田・武田軍の戦い方について読み取り、1560年頃と1582年頃の織田信長の領地を比べて学習問題を設定する。・・・(1時間)
- (2) 織田信長の業績について調べる。・・・(1時間)
- (3) 豊臣秀吉の業績について調べる。・・・(1時間)
- (4) 江戸図屏風を用いて、徳川家康の業績について調べる。・・・(1時間)
- (5) 徳川家光が大名をまとめるために行った政策の仕組みを調べる。・・・(1時間) (本時)
- (6) 徳川家光の百姓や町人に対する政策の仕組みを調べる。・・・(1時間)
- (7) 徳川家光のキリスト教や外国を取り締まるための政策について調べる。・・・(1時間)
- (8) 鎖国を行っている中で、外国との交流がどのように行われていたのかを調べる。・・・(1時間)
- (9) 信長・秀吉・家康の業績と、江戸幕府が行ってきた政策についてまとめ、発表する。・・・(1時間)

3 実際の指導（5/9時）

(1) 目標

徳川家光が大名をまとめるために行った政策の仕組みを理解する。

(2) 本時に活用する資料

単元名（教科書ページ）	資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
P.74 主な大名の配置		・大名は親藩・譜代・外様の3つに分けられ、全国に配置されていることを気づかせる。	・親藩・譜代・外様大名がどのような理由で、このような配置なのかについて気づかせる。
P.75 加賀藩（石川県）の参勤交代図			・参勤交代は大勢の家来がたくさんの道具を持って歩いていることから、大名たちにとっては大きな負担になっていたことを気づかせる。
	P 江戸図屏風	川越城が描かれていることを紹介する。	・当時の川越が江戸幕府にとって重要な役割を果たしていたことを伝えることで、川越に対する理解を深めると共に、愛着を持たせる。

(3) 展開

学習活動学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資 料	時間
1 戦国時代と江戸時代の年表を比較する。	○2つの時代の年数を比較することで、江戸時代の続いた年数の長さ気付かせ、江戸時代の様子について興味・関心が高まるようにする。 ・江戸時代が長い。 ・戦国時代は短い。 ・どうして江戸幕府は長く続いたのか。 ・家康が生き返ったのか？ ・安土桃山時代って？	・戦国時代と江戸時代の年表	4分
2 本時の課題を提示する。	徳川家光は、どのような取り組みを行って大名をまとめていったのだろう。		2分
3 家光が大名をまとめるために行った	○グループで調べさせ、それを共有させることで、今後の学習で触れる用語や語句を1人1人がおさえられるようにする。		6分

政策について調べ、共有する。 4 調べたことを全体で発表し合う。 5 参勤交代に注目させ、参勤交代の内容について話し合う。 6 学習問題の結論を導き出す。	☆資料を活用し、必要な情報をノートにまとめている。(資料活用の技能) ・参勤交代 ・手伝普請 ・大名の取り潰し ・江戸城の修理 ・武家諸法度 ・入りでっぼうに出女 ・大名の配置 ・金・銀 石見銀山 ・参勤交代を行うことで大名たちの負担がある。 ・遠い所から歩いてきて大変そう。(13日) ・その国の大名が何日もいなくなったら…。 ・費用が3億円かかる	・参勤交代の図	6 分 10 分 4 分
徳川家光は参勤交代などを行って大名たちをまとめていった。			
7 博物館の先生の話聞き、川越と江戸幕府の関わりを知る。	□江戸図屏風を見ながら、当時の川越が江戸幕府にとって重要な役割を果たしていたことを伝えることで、川越に対する理解を深めると共に、愛着を持たせる。	・江戸図屏風	13 分
			
江戸図屏風の説明	修学旅行に向けて		

4 成果

- 博物館の職員との打ち合わせを通して、こちらの知識・見聞を広めることができ、(前後の) 授業に生かすことができた。
- 資料を借りて、実物資料を使って子どもたちの興味・関心を高めることができた。
(他の学年も実物資料を見て興味・関心をもった。)
- 自分たちが住んでいる地域の当時の話を聞かせることができ、郷土に対する知識・理解を深めさせることができた。
- 博物館と学校側との連携の在り方の1つを明確にすることができた。
 - ・博物館職員が来校しなくても電話・借用書で、貸出可能な資料を借りられること。
 - ・要望すれば出前授業で講話をしてくれる。
 - ・要望に応じて資料を作成してもらえらること。
 - ・私にはない専門的な話を、子どもたちにもわかりやすく説明してくれた。
 - ・社会の授業だけでなく、要望によっては学校行事に関連した資料を用意、作成してくれた。
 - ・1クラスでも、学年単位でも講和をしてもらえる。

小学校第6学年 社会科 指導カード

1 小単元名 「江戸の文化と新しい学問」

2 指導計画（6時間扱い）

- （1）江戸のまちと人々の暮らし・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （2）人々が歌舞伎を楽しむ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （3）浮世絵が広がる・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （4）新しい学問・蘭学・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間（本時）
- （5）国学と本居宣長・・・・・・・・・・・・・・・・・・0.5時間
- （6）新しい時代への動き・・・・・・・・・・・・・・・・・・0.5時間
- （7）学習のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

3 実際の指導（4／6時間）

（1）目標

- ＜関＞博物館の資料から、伊能忠敬が日本地図を作成したことへの関心を高める。
- ＜表＞博物館の資料や職員の話をもとに、感じたことを自分の言葉でまとめることができる。
- ＜技＞資料を活用して、西洋の学問を学び日本社会や政治に役立てようとする人々が行ったことを読み取ってまとめることができる。

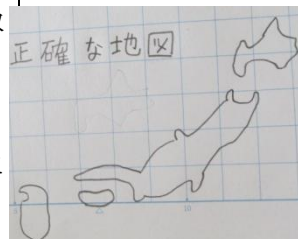
（2）本時に活用する資料

教科書ページ	資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
新しい学問・蘭学 （P94～95）	・ 絵図で見る川越「伊能図」 （P15, 16, 17）	・ 博物館職員から伊能図の資料について解説を聞く。	・ 伊能忠敬が川越にも足を運び、正確な地図を作製したことに関心を持たせる。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価 □館職員の働きかけ ◎資料活用のポイント	資料名（展示場所）	時間
1 鎖国をしていた日本の様子を振り、本時の見通しをもつ。 ・外国との貿易や交渉を制限 ・西洋の本の輸入OK ・蘭学を学ぶ人の増加	○これまでの江戸幕府の諸政策や江戸の文化を振り返る。 ○蘭学を学ぶ人が増加したことで、社会にどのような影響をあたえたかという視点を提示し、学習の見通しをもてるようにする。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。		4分
2 本時の課題を確認する。 ・課題の把握	蘭学は、社会にどのような影響をあたえたのでしょうか。		

3 「二つの解剖図」「解剖の様子」「医学を支えた人々」の資料などから、杉田玄白らの思いを考え、話し合う。	○今までの解剖図とオランダの解剖図を見比べて、オランダの解剖図の正確さに気付かせる。 ○杉田玄白らの思いや願いを考えさせる。	・解剖図の見比べ (デジタル教科書)	15 分
4 杉田玄白たちはオランダの医学書をどのように翻訳したか考える。	○翻訳の苦労を教科書から読み取らせる。 ☆資料を活用して、西洋の学問を学び日本社会や政治に役立てようとする人々が行ったことを読み取ってまとめることができる。技	・解体新書 (デジタル教科書)	
5 蘭学の広がりや、世の中にどのような影響をあたえたのか考える。 ・伊能忠敬の日本地図 ・伊能図（川越）	○何も見ないで日本地図をノートにかかせ、正確にかくことの難しさと正確な地図の重要性を実感させる。 ○伊能忠敬の日本地図と現在の日本地図を比べ、いかに正確だったか実感させる。 ○それまでの川越の地図も正確ではなかったこと、そして伊能忠敬が川越に測量に来て、正確な地図作成したことを話す。 □伊能図の解説をする。 ○児童を前に集め、順番に資料を見るように声をかける。 ◎伊能忠敬の測量によって、それまでの川越の地図より正しい地図が作られたことに気づかせる。 ○測量に使った道具をパネルやデジタル教科書で確認させる。 ☆博物館の資料から、伊能忠敬が日本地図を作成したことへの関心を高める。関	・日本地図の見比べ (デジタル教科書) ・絵図で見る川越 (「伊能図」P 15、16、17) ・測量の道具 (パネル)	20 分
6 本時の学習を振り返る。 (1) 感想用紙の記入 (2) 感想発表	○本時を振り返り、感想を書かせる。 ○感想発表をさせる。 ☆博物館の資料や職員の話をもとに、感じたことを自分の言葉でまとめることができる。表	「伊能図（川越）」	5 分
7 本時のまとめ ・教師、博物館職員から	□本時のまとめの話をする。 ○本時のまとめと次時の話をする。	・ワークシート (感想)	1 分



4 成果

○「教科書にのっていないことを知ることができて楽しかった。」「川越の歴史を知ることができおもしろかったし、さらに歴史に興味を持つことができた。」「自分たちが住んでいる川越に伊能忠敬が来ていたなんてすごい。」という児童の感想を聞き、博物館の資料を活用し、本当に良かったと感じた。

○博物館の資料とお話で、さらに興味を持って授業に取り組むことができた。

○児童が「なるほど」「知りたい」「楽しい」と思える授業展開のために、博物館の力を借りることも必要だと考える。

小学校第6学年 社会科 指導カード

1 小单元名 「江戸の文化と新しい学問」

2 指導計画（6時間扱い）

- (1) 江戸の町の様子や人々の暮らしを描いた絵図を見て当時の文化に関心を持ち、学習問題を設定する。
(1時間)
- (2) 江戸の芝居小屋の様子を描いた絵図や近松門左衛門の作品などをもとに、歌舞伎の広まりについて調べる。
(1時間)
- (3) 当時の景色や人々の様子を描いた、歌川広重などの作品をもとに浮世絵の広まりについて調べる。
(1時間)
- (4) 杉田玄白や前野良沢らの業績をもとに、新しい学問がおこった様子や社会に与えた影響について調べる。
(1時間)
- (5) 本居宣長が研究した国学の特色と国学が社会へ与えた影響について調べる。
(1時間)
- (6) 調べたことをもとに、学習問題について話し合い、まとめ、新しい学問に取り組んだ人々の思いを考える。
(1時間)（本時）

3 実際の指導（3／6時間）

(1) 目標

歌川広重らの働きと社会の変化について調べ、町人の文化が広がり、教育も普及したことを読み取りまとめることができる。

(2) 活用する資料

单元名（教科書ページ）	資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
P. 84 古地図を使って歩いてみれば	P. 75 柳沢候時代川越図	・江戸時代の川越の様子と現在の川越の様子を比べるための資料として提示する。	・江戸時代の川越の地図を見て、今と変わらないところ変わっているところを探し、地域の歴史に興味・関心を持てるようにする。
P. 86 絵巻で見る、江戸時代の人々	P. 84 85 職人尽絵	・職人尽絵を見せ、どんな仕事をしているのかクイズにする。	・江戸のまちの人々や仕事に着目させることで、生活の様子に興味・関心を持たせる。
P. 88 江戸のまちと人々のくらし	P. 95 関東水流図 P. 96 河岸問屋 運賃表による船積荷物の変遷	・魚市場の様子から、舟運が発達していることを読み取り、川越の河岸との交流について紹介する。	・江戸と川越との荷物の交流によってどちらも商業が発達してきたことを理解させる。
P. 93 浮世絵が広がる	P. 87 川越の寺子屋私塾	・教育への関心が高まり、川越でも数多くの寺子屋・私塾があったことを紹介する。	・江戸から広がった文化が川越にも広まり、教育への関心が高まることで多くの子ども達が生活に必要な知識を学ぶようになったことに気づかせる。
P. 94、95 新しい学問・蘭学	P. 88 北野操六画像	・江戸の文化と交流のあった川越の文化人としてしょうかいする。	・江戸と地方（川越）の交流から地方にもいろいろな学問が広まってきたことに気づかせる。
P. 97 新しい時代への動き	P. 100 武州世直し一揆と川越藩農兵反対一揆	・川越でも一揆があり、川越藩兵が鎮圧したことを紹介する。	・江戸だけでなく世の中全体が政治不安の中にあったことに気づかせる。

(3) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価 □館職員の働きかけ ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 これまでの学習を振り返り、本時の見通しを持つ。 ・江戸の町の様子 ・歌舞伎を見る人々	○これまでの学習を振り返り、江戸の町では、歌舞伎などの文化を武士だけでなく町人も楽しむようになったことをおさえ、「歌舞伎役者が描かれた浮世絵がどのように広まっていったのか」という学習課題に目を向けるようにする。		2分

2 本時の課題を確認する。 ・墨絵との浮世絵を比べ気づいたことを話し合う。 ・課題の把握	浮世絵は、人々の間にどのように広がり、どのような影響を与えたのだろうか ◎墨絵と違って色が鮮やか。 ○浮世絵の広まった理由とその影響について考えていくようにさせる。	「東海道五十三次」の挿絵 P. 60 墨絵	5 分
3 浮世絵や歌川広重について調べまとめる。 (1) 歌川広重について (2) 浮世絵について (3) 歌川広重の浮世絵が与えた影響について	○教科書や資料集をもとに、3つの視点をもとに調べさせる。 ☆資料から視点にそって読み取りまとめることができる。 ・下級武士の出身 ・「東海道五十三次」を描いた ・名所風景を描いた「東海道五十三次」は、大量に印刷された。(多色刷り) ・江戸からの土産として多くの人々の手に渡った。 ・歌舞伎役者を描いたものも多かった。 ・ゴッホなど海外の画家にも影響を与えた。 ・文化が地方に広がったことで、教育への関心が高まり、各地に寺子屋ができた。	教科書資料集 浮世絵	15 分
4 調べたことを話し合う。	○視点ごとに児童が調べたことをまとめていく。 □児童が調べ、まとめたことを確認しながら補足説明をしていく。 ◎歌川広重について ◎浮世絵について 教科書以外の浮世絵を見せ、町人にとって身近なものを題材にしていることに気づかせる。→版画の印刷技術が上がったことで地方にまでも広がり、今で言うアイドルの写真や旅の雑誌のように人々の楽しみであったことを知らせる。 ◎影響について 浮世絵だけでなく、貸本屋の本など、楽しみのために本を読む人も増え、その文化が地方に広まったことで教育への関心が高まったことに気づかせる。川越にも多くの寺子屋があったことに気づかせ、自分たちの身近にも広まっていたことを実感させる。	ゴッホの絵(P. 92) 寺子屋の様子(P. 93) 川越の寺子屋私塾(図録P. 87) 往来物	18 分
5 本時の学習を振り返る。 ・課題のまとめ ・感想の記入	江戸の町人を中心に浮世絵などの文化が広がり地方へも広がっていった。文化が広がるとともに教育への関心が高まり、各地に寺子屋ができ多くの町人や百姓が学んだ。 ☆町人の文化が広がり、教育も普及したことを理解できる。		5 分



〔百姓往来について〕



〔女大学について〕



〔日本外史版木について〕

4 成果

- 普段授業では取り組まないような深い部分に触れることができた。
- 打ち合わせの段階で博物館の方とお話ができて、浮世絵がどのように世界中に広まったかなど、教師側の知識が増え、とても良い教材研究になった。
- 博物館と連携をとることにより、教師が行う授業部分がより豊かになった。
- 実物に触れることができた児童は、興奮気味に喜びを表現していた。
- 昔の文章を博物館の方がすらすら読んでいることにもとても驚き、「すごい」と驚きを隠せない様子だった。

小学校第6学年 社会科 指導カード

1 小单元名 「明治の国づくりを進めた人々」

2 指導計画（8時間扱い）

- (1)江戸時代の寺子屋の様子と明治時代の小学校の様子を描いた絵図を見て、気づいたことを話し合う。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(1時間)
- (2)ペリーの来航によってどのような影響が国内に表れたかを調べ、話し合う。(1時間)(本時)
- (3)黒船の来航から、国内が混乱して若い武士たちが江戸幕府を倒すまでの様子について調べる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(1時間)
- (4)欧米に学んだ大久保利通らが、どのような国づくりを目指したのかを調べわかったことや考えたことを発表する。・・・・・・・・・・・・・・・・(1時間)
- (5)「日本橋近くの様子」の絵図を見て、気づいたことを話し合う。・・・・・・・・(1時間)
- (6)政府の改革に不満をもつ人々の行動について調べる。・・・・・・・・(1時間)
- (7)各地の憲法案や伊藤博文がつくった憲法について調べ、話し合う。・・・・(1時間)
- (8)学習を振り返って、グループで人物関係図をつくる。・・・・・・・・(1時間)

3 実際の指導（2／8時間）

(1) 目標

ペリーの来航によってどのような影響が国内に表れたかを知る。

(2) 本時に活用する資料

单元名（教科書ページ）	資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
若い武士たちが幕府をたおす（P.102）	瓦版 泰平御台場画図（P.99）	東京湾の警備の様子を表した当時の瓦版のコピーを児童全員に配布する。	当時の東京湾の警備において、川越藩が主要な場所を担当していたことを紹介する。

(3) 展開

学習活動・学習内容	○教師のはたらきかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料	時間
1.「ペリーの上陸」の絵図を見て、気づいたことを話し合う。	○絵図を見て、気づいたことを発表させる。 ・海にたくさんの船がある。 ・兵隊みたいな人が並んでいる。 ○ペリーは、なぜ日本に来たのかについて考えさせる。 ・話をしにきた。 ・鎖国をやめるように言いに来た。 ・戦争をしにきた。 ○ペリーが開国を求める大統領の手紙をもってきたことを伝える。	・「ペリーの上陸」の絵図 ・ペリーの肖像画	8分

2. 本時の課題を確認する。	ペリーの来航は、日本にどのような影響を与えただろうか		
3. ペリーの来航後の世の中の動きについて調べる。	○ペリーの来航から、どのような影響があったのか調べさせる。 ・日米和親条約を結んだ。 ・日米修好通商条約を結んだ。 ・鎖国が終わる。 ・物価が上がり、人々の不満が高まった。 ☆興味をもって課題について調べている。(関・意・態)		20分
4. 調べたことを発表し合う。	○児童の発表をまとめながら、補足説明をする。		
5. 博物館の先生の話聞く。	・ペリーの来航と川越藩の関わり ・お台場について ・博物館の先生の話聞く	・瓦版 泰平 御台場面図	10分
 			
6. 授業の感想を書く。	○本時の学習を振り返らせ、感想を書かせる。		5分
7. 次時の予告			2分

4 成果

- 外部（博物館）から先生が来るということだけで、児童は普段よりも授業に対して意欲を持って取り組んでいた。
- 博物館に行ってみたいという児童が増えた。
＜児童の感想より＞
- 遠く感じた教科書の中ことが、自分たちの住んでいる川越の人たちが関わっていたことに驚いた。
- 川越藩の人たちが、もしかしたらペリーに会っていたかもしれないと思うと、なんだか嬉しくなった。

中学校第1学年 社会科 指導カード

1 単元名 「武士の台頭と鎌倉幕府」

2 指導計画（5時間扱い）

- （1）武士の成長・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （2）武家政権の成立・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （3）武士と民衆の生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （4）鎌倉時代の文化と宗教・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （5）川越の武士の暮らしから鎌倉時代のまとめをしよう・・・・・・・・・・1時間（本時）

3 実際の指導（5／5時間）

（1） 目標

- ・身近な地域の歴史に関心・意欲を持ち学習する。（関心・意欲・態度）
- ・川越の武士の暮らしを資料から読み取って、当時の生活を理解する。（思考・判断・技能）

（2）本時に活用する資料

単元名	資料名等	活用の仕方	ねらい
1 武士の成長	新日吉社の写真	・寄進地系荘園が川越にもあったことからこの時代への関心・意欲を高める。	・後白河上皇に寄進した荘園であるということから当時の川越にも武士がいたということを理解する。
2 武家政権の成立	鎌倉街道上道の地図	・鎌倉街道上道の地図を見て、将軍と御家人の御恩と奉公の関係について学習する。	・当時の川越の様子から、この地域にも将軍と関係のある武士がいたことなどを学ぶ。
4 鎌倉時代の文化と宗教	東鑑（吾妻鑑）の一部	・歴史書の中から河越氏に関する記述を読み取る。	・奈良時代とは異なり、細かく歴史書が記されることになったことを理解する。
5 川越市の武士の暮らしから鎌倉時代のまとめをしよう	「河越館」復元図	資料から武士の生活を読み取る。すでに学習している一般的な武士の生活とは異なる点を読み取る。	・農地が館の外にあったり宗教的な区画がつくられているなど一般的な生活とは異なることを読み取り、当時の武士の中では高い地位を持っていたことを想像させたい。
	「河越館」出土品	発掘された出土品から、当時の一般的な武士との生活の違いを考える。	・輸入品である青磁など発掘されていることから一般的な武士の生活とは異なることを読み取りたい。

(3) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 鎌倉時代の武士の生活を振り返る。 2 「川越」という地名から、河越氏についてふれる。 3 本時の学習課題を確認する。	○当時の武士の生活など学習した内容をワークシートに記入しながら振り返りを行う。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○「川越」の「川」とはどの川なのか、「河越氏」という武士はそどのような武士なのかなど、興味・関心を高める。	ワークシート	10分
鎌倉時代の川越市の武士の様子を読み取ろう。			
3 川越館の復元図や出土品を見て、当時の武士の生活を班で読み取る。 4 資料から読み取れた特徴を各班で発表する。 5 博物館の方から川越館での武士の生活について話していただく。	○川越館の復元図や出土品を見て、当時の武士の生活を読みとるポイントをいくつか説明する。 ◎川越館だけでなく、宗教的な区画や街道などにも目を向けさせる。 ☆意欲的に取り組むことが出来たか。 ○各班の発表を聞きながら、すでに学習した鎌倉時代の武士の生活との違いを考えさせる。 □川越館の復元図と出土品を用い、当時の川越の武士の生活について説明する。	・「川越館」復元図  ・出土品   	35分
6 博物館の方の話を聞いて、自分なりに学んだこと、感じたことをワークシートに書く。	○博物館職員の話をもとに、当時の川越市の様子がどうだったかをまとめられるようにする。 ☆当時の武士の生活を理解することができたか。	ワークシート	5分

4 成果

- 身近な題材をテーマに持つことで、生徒の興味・関心を高めることにつながった。
- 普段の授業ではなかなか興味を抱けないような生徒でも「博物館から実物教材が来る」と聞いただけで、興味を抱いていた。
- 博物館職員の解説により、より深く当時の社会の様子を理解することができた。
- 特に武士が当時の社会の中でどのような存在であったか等は様々な写真資料と解説等から多面的に理解し、その後仏教が広がっていった過程に関してもより深く理解することができた。
- 既習事項の内容に関しても、再度整理しながら説明していただいたことで再度理解を深めることができた。

中学校第1学年 社会科 指導カード

1 単元名 「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」

2 指導計画（7時間扱い）

- (1) キリスト教世界とルネサンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (2) ヨーロッパと外の世界・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (3) ヨーロッパ人との出会い・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (4) 織田信長・豊臣秀吉による統一事業・・・・・・・・・・ 2時間（本時）
- (5) 兵農分離と朝鮮侵略・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (6) 桃山文化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

3 指導の実際（8／8時間）

(1) 目標

- 〈関〉博物館にある具体的な資料を通して、近世の川越について意欲的に学習しようとしている。
- 〈知〉現代に残る近世の資料を通して、わたしたちが暮らしている川越が、歴史の流れと大きく結びついていることを理解することができる。

(2) 本時に活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
(1) 豊臣軍北条氏征伐侵攻図（作成資料）	・地図を掲示し、豊臣軍が陸や海を通して関東へ攻め込んできたことを説明する。	・豊臣軍が、どのような動きで関東へ攻め込んできたのか理解させる。
(2) 北条氏朱印状 （作成資料）	・朱印状全体を提示したのちに、一部分を拡大したものを掲示し、「大袋」という文字があることに気付かせる。	・解読できそうな文字を読み取らせることで興味・関心を高め、当時この周辺に集落があり、北条氏から書状が出されたことを理解させる。
(3) 豊臣秀吉朱印状 （作成資料）	・朱印状全体を提示したのちに、一部分を拡大したものを掲示し、「大袋」という文字があることに気付かせる。	・解読できそうな文字を読み取らせることで興味・関心を高め、当時豊臣氏からも書状が出されたことを理解させる。
(4) (2)(3)実寸版 （作成資料）	・北条氏朱印状と秀吉朱印状を並べて提示し、互いのちがいについて考えさせる。	・北条氏朱印状と秀吉朱印状の大きさを比較させることで、当時紙が貴重なものであったこと、さらには権力の大きさを表しているということを理解させる。

(3) 展開

学習活動 学習内容	○教師の働きかけ □博物館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資 料 名	時間
1 これまでの学習を振り返る ・時代区分 ・安土桃山時代 織田信長 豊臣秀吉	○自己紹介する ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介する。 ○本時は、歴史的分野（安土桃山時代）について学習することを確認させる。 ○安土桃山時代について発問する <u>安土桃山時代に活躍した人物と言えば？</u> 豊臣秀吉と言えば？ 太閤検地、刀狩、 <u>全国統一</u>	・ワークシート	10分
2 秀吉の統一事業について知る P.98 L.14 ～ P.99 L.6	○教科書を音読させる。 ○P.99 L.4 にマーカーで線を引かせ、こうした出来事に川越が大きく関わっていることを伝える。		4分

3	本時の学習課題を確認する			1分
秀吉が活躍していたころの川越は、どのような様子であったのか				
4	豊臣軍が、どのように関東へ来たのか、また、川越はどのように関わっていたのか知る   	☐資料(1)を提示し、豊臣軍が統一事業の最後として関東に侵攻してきたときのようすを説明する。 ☐資料(2)を提示する ○資料(2)について発問する。 <u>これは何だと思うか？</u> <u>読めそうな字があれば読んでみよう</u> 「大袋」⇒ 私たちが暮らしている地名である ☐資料(2)の内容について説明する。 ☐資料(2)を通して、豊臣軍との戦いに川越がどうかかわっていたのか説明する。 ○資料(2)の内容について発問する。 <u>なぜ、大袋村に加勢を求めたのだと思うか？</u> ☐大袋村に加勢が求められた意味を説明する。 ☐資料(3)を提示する。 ○資料(3)について発問する <u>読めそうな字があれば読んでみよう</u> 「禁制」とは？ 村人たちにどのようなことを求めたと思うか ☐村人たちが求められた内容とその背景について説明する。 ☐資料(4)(5)を提示する。 ○2つの資料の大きさに注目させ、このちがいが意味することを考えさせる。 ☐ちがいの意味について説明する。 ○ここまでの学習内容をまとめる。	・豊臣軍北条氏征伐侵攻図 ・北条氏朱印状 ・豊臣秀吉朱印状 ・北条氏朱印状 (実寸版) ・豊臣秀吉朱印状 (実寸版)	25分
5	本時の学習についてまとめる	○博物館職員の話をもとに、近世における川越のようすについて、分かったことや感じたことを、自分なりのことばでまとめられるように促す。	・ノート	10分

4 成果

- 秀吉の全国統一の取り組みにも、川越が深く関わっていたことを知り、この地域にも集落があり、人々が生活していたことがわかった。
- 地域に現存する豊臣秀吉の書状を利用したことにより、豊臣秀吉を身近に感じることができた。
- 身近な地域の資料を授業に取り入れることにより、興味・関心が高まった授業を行うことができた。生徒の中にも「驚いた」「親近感がわいた」「歴史が身近なものに感じた」等の感想が多数あった。
- 資料が地元のものであることから、生徒の学習に、探求心が芽生えた。
- 資料を利用することにより、その時代の様子等の理解を深めることできた。

中学校第 1 学年 社会科 指導カード

1 単元名 「文明のおこりと日本の成り立ち」

2 指導計画（8 時間扱い）

- | | |
|---------------------------------------|----------|
| （１）世界の古代文明と宗教のおこり（人類の出現と進化・新石器時代）………… | 1 時間 |
| （２）世界の古代文明と宗教のおこり（エジプト・メソポタミア・インダス）… | 1 時間 |
| （３）世界の古代文明と宗教のおこり（中国）…………… | 1 時間 |
| （４）ヨーロッパの古代文明イスラム教…………… | 1 時間 |
| （５）日本列島の誕生と縄文文化…………… | 1 時間 |
| （６）弥生文化と邪馬台国①…………… | 1 時間 |
| （７）弥生文化と邪馬台国②…………… | 1 時間（本時） |
| （８）大王の時代…………… | 1 時間 |

3 実際の指導（7／8 時間）

（１）目標

＜関＞博物館の資料から「弥生時代の川越」に関心を持ち、弥生時代の生活の様子を意欲的に調べようとしている。

＜資＞博物館の資料から、弥生文化の特色や弥生時代の人々の生活の特色を捉えることができる。

（２）本時に活用する資料

資料名	場面	活用の仕方	ねらい
（１）縄文土器 （レプリカ）	導入	・縄文土器の特徴を捉える。	・実際に目にする事で弥生土器との違いを考えさせる。
（２）弥生土器 （北関東系土器、南 関東系土器、比企 系土器） （実物資料）	展開	・弥生土器の特徴を捉える。また、それぞれの土器の違いを考える。土器の特徴や交流の様子について博物館職員から解説を聞く。	・自分たちの身近な地域に弥生時代の遺跡があることを知り、弥生時代について関心を高める。 ・土器の違いや特徴を考え、特徴の異なる土器が霞ヶ関遺跡から出土したことから川越周辺の交流の様子を考えさせる。
（３）紡錘車の写真	展開	・紡錘車の写真を見せ、霞ヶ関遺跡で機織りの技術があったことを知る。	・身近な地域で機織りの技術があったことを知り、関心を高める。
（４）弥生機の体験	展開	・弥生時代の機を体験することで生活の様子を知る。博物館職員の解説を聞く。	・弥生機の体験をすることで弥生時代の生活について興味・関心を高める。

（３）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 縄文時代の様子を振り返る。 2 本時の課題を確認する。	○簡単に振り返らせる。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をし、縄文時代の川越について簡単に解説する。 ○「博物館の資料を利用して、弥生時代の川越の様子を知る」という視点を提示し、学習の見通しをもてるようにする。		7 分
博物館の資料から、「弥生時代の川越」を学ぼう！			

3 弥生時代の川越に関する資料と、博物館職員の解説を聞き、「弥生時代の川越」「弥生時代の特徴」を考える。	○弥生土器の実物を提示し、縄文土器との違いを考えさせる。 □弥生土器について解説する。 ○3種類の弥生土器の違いに注目させ、種類が異なることに気づかせる。 ◎実物資料を目にすることで、弥生時代の川越に興味・関心を持てるようにする。 □3種類の弥生土器の解説をし、霞ヶ関遺跡から3種類の土器が出土したことを明らかにする。 ○霞ヶ関遺跡の地がどのような場所であったかを考えさせる。 ◎3種類の土器が出土する霞ヶ関遺跡は文化交流の要所だったと気づかせるようにする。 ○紡錘車の写真を見せ、何に使っていたものか考えさせ、霞ヶ関遺跡でも衣服をつくる技術があったことに注目させる。 □縄文時代の機と弥生時代の機の違いを解説する。 ○生徒1～2人に弥生機を体験させる。 ○生活の違いをまとめさせる。 ☆弥生時代の人々の生活の様子や交流の様子について意欲的に調べようとしている（関） ☆弥生文化の特色や弥生時代の人々の生活の特色を捉えることができる。（資）	縄文土器 （レプリカ） 弥生土器 （実物資料） ・北関東系土器 ・南関東系土器 ・比企系土器 紡錘車の写真 弥生機	13 分 20 分 5 分
4 弥生機を体験し、当時の文化に触れる。	○資料や博物館職員の説明から弥生時代の様子について自分の言葉でまとめさせる。		

4 成果

- 子どもたちの興味・関心が高められたのが何よりの成果だった。本物の土器を目にし、それに触れることで普段の授業以上に意欲的に取り組んでいた。
- 本物だからこそその質感や匂いも子どもたちは新鮮に感じたようだった。
- 弥生機の体験は、時間と教室の規模の都合上、数人しか体験できなかったが、今の布を織る技術に通じることを解説していただき、子どもたちも身近なものとして捉えられたようだった。
- 私自身も埋蔵文化財センターに足を運び、資料を借りたり、授業で活用できる資料を博物館利用研究会で教えていただいたりすることで教材研究の幅も広がった。
- 今回、二年間の博物館利用研究委員の経験から、授業で活用できる資料が多くあることがわかったし、それを活用するのにそこまで手間がかからないという意外な発見もあった。今後も子どもたちのために、授業を魅力的にするにはどうすればいいかを考え、幅広い資料収集をしていきたい。

中学校第1学年 社会科 指導カード

1 単元名 「文明の起こりと日本の成り立ち」

2 指導計画（7時間扱い）

- （1）世界の古代文明と宗教のおこり・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間
- （2）日本列島の誕生と縄文文化・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （3）弥生文化と邪馬台国・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （4）大王の時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- （5）身近な地域の古墳文化・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間（本時）

3 実際の指導（7／7時間）

（1）目 標

＜関＞川越に残る古墳時代の資料から、古墳文化や古墳時代の人々の生活の様子について意欲的に調べようとしている。

＜資＞川越に残る古墳時代の資料を通して、古墳文化の特色や古墳時代の人々の生活の特色をとらえている。

（2）本時に活用する資料

資 料 名	活用の仕方	ね ら い
（1）川越市内古墳時代の遺跡の分布図と地形図（写真パネル）	・川越市内のどの地域に古墳や集落があったかを調べる。古墳群のあった地域などについて博物館職員から解説を聞く。	・自分たちの身近な地域に古墳があることを知り、古墳文化についての関心を高める。
（2）南大塚古墳群の写真（写真パネル）	・自分たちの身近な地域にどのような種類の古墳があったかを調べる。また、現在の様子の写真からどのような状況になっているかを知る。博物館職員からの解説。	・現在も残っている古墳の写真から教科書を通して学んだ歴史を「身近な地域の歴史」としてとらえ、興味・関心を高める。
（3）山王塚古墳の写真（写真パネル）		
（4）古墳出土の須恵器、武器、馬具（実物資料、写真パネル）	・古墳からの出土品から古墳時代はどのような生活を行っていたか、また弥生時代と古墳時代で人々の生活にどのような共通点や変化があるかを知る。博物館職員からの解説。	・土器や住居の様子から弥生時代と比べた古墳時代の人々の生活の様子について考える。また、古墳や武器・馬具などの出土品から弥生時代より強力な権力者がそれぞれの地域に登場したことを理解する。
（5）古墳時代の住居（写真パネル）		
（6）南大塚4号墳出土の円筒埴輪と形象埴輪（実物資料）	・出土した埴輪から埴輪の役割について考える。博物館職員からの解説。	・埴輪が作られ、古墳に埴輪が設置された役割や目的を実物資料から考えさせる。

（3）展 開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □博物館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資 料	時 間
1 本時の課題の確認 ・課題の把握	○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をする。 ○南大塚という地名の意味について考えさせる。 ○「古墳時代の川越」という視点を提示し、学習の見通しが持てるようにする。	・生徒手帳	5分
古墳時代の川越はどのような様子だったのだろう？			

2 川越市内の古墳時代の様子について、資料や博物館職員の解説を通して調べ、ワークシートにまとめる。 (1) 川越市内の古墳の分布	○川越市内の遺跡分布図を提示し、どのような地域に古墳や集落があったかを調べさせる。 □川越の古墳分布について、古墳時代の川越の様子などを説明する。 ◎分布図から川越市内の各地に古墳があったこと理解し、関心が高められるようにする。	・川越市内古墳時代遺跡の分布図	35分
(2) 川越市内の古墳の種類	○身近な地域にある古墳のイラストを提示し、川越にある古墳の種類を確認させる。 □山王塚古墳について説明する。 ◎川越にはどのような種類、どのような規模の古墳があったのかを知り、川越の古墳文化に興味・関心を持てるようにする。	・ワークシート ・南大塚古墳群、山王塚古墳の写真	
(3) 古墳の出土品について	□山王塚古墳や南大塚古墳群から出土した資料について解説をする。 ○出土品や古墳時代の住居の様子から弥生時代の生活と比較させる。 ◎古墳からの出土品から、古墳時代の人々の生活の様子を想像できるようにする。 □古墳時代の生活の様子やその後の時代にどのようにつながっていったかを説明する。 ☆古墳文化の特色や古墳時代の人々の生活の特色をとらえている。(資)	・古墳出土の須恵器、形象埴輪、武器、馬具 ・古墳時代の住居の様子	
3 本時の学習についてまとめる。	○資料や博物館職員の説明から古墳時代の川越の様子について自分の言葉でまとめるようにする。 ☆古墳時代の川越の様子を自分の言葉でまとめることができる。(思)	・ワークシート	10分



4 成果

- 実物に触れ合うことで生きた歴史について学べた。また教科書の中で起こっている歴史ではなく、今回は身近な地域の内容について学ぶことができた。
- 学芸員さんが解説してくれることで、より深い内容を学ぶことができた。
- こちらが行いたい授業や使いたい資料をお願いすると探してくれて、使い方も提案してくれるなど打ち合わせの手間も少なく、授業のサポートをしてくれた。

中学校第2学年 社会科 指導カード

1 単元名 「明治維新」

2 指導計画（8時間扱い）

- | | |
|--------------------------|----------|
| (1) 新政府の成立 | 1 時間 |
| (2) 明治維新の三大改革 | 1 時間 |
| (3) 世界とつながる日本と文明開化 | 1 時間 |
| (4) 岩倉使節団と殖産興業 | 1 時間 |
| (5) 近代的な国際関係 | 1 時間 |
| (6) 自由民権運動の高まり | 1 時間 |
| (7) 立憲制国家の成立 | 1 時間 |
| (8) 明治時代の川越を学ぼう | 1 時間（本時） |

3 実際の指導（8／8時間）

(1) 目標

＜関＞博物館の資料から「明治時代の川越」に関心を持ち、川越の様子を積極的に調べようとする。

＜表＞「明治時代の川越」を、魅力あふれる紹介文にまとめることができる。

＜知＞明治維新による日本の近代化と同様に、川越も近代化していく様子を理解する。

(2) 本時に活用する資料

資料名	場面	活用の仕方	ね ら い
(1) 江戸図屏風(右隻) (ターポリン)	導入	・江戸図屏風(右隻)を見て、いつの時代のどこが描かれているのかを考える。	・江戸時代の川越に対する関心を高め、近代化を始めた「明治時代の川越」を学習する、本時のねらいを確認する。
(2) 五榜の掲示高札 (実物資料)	展開	・班ごとに資料の文章を解読し、資料の正体を推理する。 ・博物館職員から資料についての解説を聞く。	・実物資料を扱うことで、「明治時代の川越」を身近に感じる。
(3) 地券 (実物資料)			
(4) 明治時代の写真 (写真パネル) ・明治10年代の鍛冶町通り ・町勘金物店 ・川越町役場 ・石川組製糸場 ・川越電気鉄道 ・川越火力発電所 ・乗合馬車の廃業 ・並木小学校 など	展開	・明治時代に川越が近代化していく様子を、写真から読み取る。 ・博物館職員から写真の撮影場所や資料についての解説を聞く。	・明治維新による日本の近代化と同様に、川越も近代化していく様子を知り、現在の川越市に対する郷土愛を育む。

(3) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 江戸時代の社会の様子を振り返る。 ・武士中心の封建社会	○江戸図屏風(右隻)を見て、いつの時代のどこが描かれているのかを考えさせる。 ○博物館職員を紹介する。	・江戸図屏風 (教室の側面)	10分

・町人文化の発達 2 これまでの学習を振り返り、本時の課題を確認する。 ・明治政府の諸改革 ・文明開化 博物館の資料から、「明治時代の川越」を学ぼう！	□自己紹介をし、江戸図屏風に当時の川越が描かれていることを解説する。 ○「博物館の資料を利用して、明治時代の川越はどのようなだったのかを知る」という視点を提示し、学習の見通しをもてるようにする。		
3 明治時代の川越に関する資料と、博物館職員の解説を聞き、「明治時代の川越」を考える。 (1) 川越の明治維新 ・五榜の掲示 ・地券 (2) 写真からわかる明治時代の川越 ・蔵造りの町並み ・洋風建築 ・交通 ・産業 ・教育 (3) 「明治時代の川越」を紹介する文をまとめる。	○高札の写真と原文から、学習班ごとに高札の正体を推理する。 ◎教科書や資料集を活用させて、高札に対する関心を高めるようにする。 □高札の正体を発表し、解説する。 ○地券を提示する。 □地券について解説する。 ○写真から明治時代の川越の様子を読み取る。 □写真についてと写真が写された場所について、解説する。 ◎蔵造りの町並みが明治時代にできたことに気づかせる。 ◎「乗合馬車」「チンチン電車」「火力発電所」「製糸場」など、明治時代の川越が急速に近代化したことを実感させる。 ○資料を活用して、魅力あふれる「明治時代の川越」を紹介する文をまとめ、発表する。 ☆さまざまな資料を活用して、川越の様子を積極的に調べようとしている。(関) ☆「明治時代の川越」を魅力あふれる紹介文にまとめる。(表) ☆川越の近代化について理解する。(理)	・高札（五榜の掲示） （実物資料） ・地券 （実物資料） ・明治の川越 （写真パネル）  	15分 10分 10分
4 本時の学習を振り返る。 ・感想用紙の記入	○博物館職員の話をもとに感想が書けるようにする。	・感想用紙	5分

4 成果

- 市立博物館にある「高札」などの実物資料を、間近に見たり触れたりすることで、歴史に対する関心が高まった。
- 明治時代の川越を写した多くの写真から、近代化していく川越の様子を知り、郷土に対する愛着が深まった。
- 班ごとに様々な資料を活用して、高札の正体を推理する活動を通して、生徒の話し合う能力が高まった。
- 博物館職員の話をもとに、明治時代の川越を魅力あふれる紹介文にまとめる活動を通して、郷土川越を誇りに感じた。

中学校第3学年 社会科 指導カード

1 単元名 「第一次世界大戦と日本」

2 指導計画（8時間扱い）

(1) 第一次世界大戦	1 時間
(2) ロシア革命	1 時間
(3) 国際協調の時代	1 時間
(4) アジアの民族運動	1 時間
(5) 大正デモクラシーと政党内閣の成立	1 時間
(6) 広がる社会運動と普通選挙の実現	1 時間
(7) 新しい文化と生活	1 時間
(8) 大正時代の川越を学ぼう	1 時間（本時）

3 実際の指導（8／8時間）

(1) 目標

＜関＞博物館の資料から「大正時代の川越」に関心を持ち、川越の様子を積極的に調べようとする。

＜表＞「大正時代の川越」を、魅力あふれる紹介文にまとめることができる。

＜知＞義務教育の普及や大正デモクラシーの影響を受けて、川越にも大衆文化が広がり始めていたことを理解する。

(2) 本時に活用する資料

資料名	場面	活用の仕方	ね ら い
(1) 双六 (ターポリン)	導入	- 子どもの遊びの双六が大正時代の文化を象徴することを知る。 - 博物館職員から資料についての解説を聞く。	大正デモクラシーや戦争の影響を受けつつ、大衆文化が広まり始めた「大正時代の川越」を学習する、本時のねらいを確認する。
(2) 双六 (実物資料)	展開	- 班ごとに資料の文章を解読し、資料からわかることをまとめる。 - 博物館職員から資料についての解説を聞く。	実物資料を扱うことで、「大正時代の川越」を身近に感じる。
(3) 蓄音器 (実物資料)	展開	- 双六を使用して当時の遊びを体験するとき、BGMとして実物の蓄音器の音を聴く。 - 博物館職員から資料についての解説を聞く。	義務教育の広がりから大正時代の日本では新しい文化が発展したのと同様に、川越にも大衆文化が広がっていたことを知り、現在の川越市に対する郷土愛を育む。

(3) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名 (展示場所)	時間
1 大正時代の社会の様子を振り返る。 ・第一次世界大戦 ・大正デモクラシー ・大衆文化の発展	○双六（ターポリン）を見て、大正時代の社会の様子を振り返らせる。 ○博物館職員を紹介する。 □自己紹介をし、双六の遊び方や双六からわかることを、解説する。	・双六 (ターポリン)	10分

2 本時の課題を確認する。	○「博物館の資料を利用して、大正時代の川越はどのようなだったのかを知る」という視点を提示し、学習の見通しをもてるようにする。		
博物館の資料から、「大正時代の川越」を学ぼう！			
3 大正時代の川越に関する資料と、博物館職員の解説を聞き、「大正時代の川越」を考える。 (1) 大正時代の遊び体験 ・双六 ・蓄音器の音(BGM)	○双六の実物資料から大正時代についてわかることを、学習班ごとにまとめる。 ◎教科書や資料集を活用させて、双六に対する関心を高めるようにする。 □双六(実物資料)について、解説する。 ○蓄音器の音楽を聴きながら、双六遊びに取り組む。 ◎大正時代の民衆の気持ちを想像させる。 □蓄音器について、解説する。	・双六 (実物資料) ・蓄音器 (実物資料)	20分
(2) 川越の大正時代 ・戦争の影響 ・大衆文化の広がり	□大正時代の川越について、補足の解説をする。	・川越の地図 (博物館作成)	5分
(3) 「大正時代の川越」を紹介する文をまとめる。	○資料を活用して、魅力あふれる「大正時代の川越」を紹介する文をまとめ、発表する。 ☆さまざまな資料を活用して、川越の様子を積極的に調べようとしている。(関) ☆「大正時代の川越」の魅力あふれる紹介文をまとめる。(表) ☆大衆文化の広がりについて理解する。(理)	 	10分
4 本時の学習を振り返る。 ・感想用紙の記入	○博物館職員の話をもとに感想が書けるようにする。	・感想用紙	5分

4 成果

- 市立博物館にある「双六」や「蓄音器」などの実物資料を、間近に見たり触れたりすることで、歴史に対する関心が高まった。
- 博物館が作成した川越の地図から、川越市内にある大正時代の建築物を知り、川越の街に対する愛着が深まった。
- 班ごとに様々な資料を活用して、双六から大正時代の特徴を読み取る活動を通して、生徒の話し合う能力が高まった。
- 蓄音器の音楽をBGMに、双六遊びを体験することで、大正時代の雰囲気味わうことができた。
- 博物館職員の話をもとに、大正時代の川越を魅力あふれる紹介文にまとめる活動を通して、郷土川越に誇りを感じた。

川 発 第 号
平成 年 月 日

川越市立博物館
館長 様

川越市立
校長

訪問授業の実施について（依頼）

このことについて、下記のとおり実施したいので、ご配慮くださるようお願いいたします。

記

- 1 日 時 平成 年 月 日（ ）
 ① 年 組 : ~ : (分)
 ② 年 組 : ~ : (分)
 ③ 年 組 : ~ : (分)
- 2 会 場 年 組 教室
- 3 学年・組 第 学年
- 4 教 科 名 科
 (单元名) ()
- 5 主な内容 ○
- 6 借用資料 ○
- 7 連 絡 先 ○担当者名：
 ○電話番号：
- 8 備 考